

広域ゴミ焼却施設、計画 多くの問題をかかえたまま、すすんでいいのでしょうか

問題1 広域化計画

国や県が広域化（下表）を誘導し、大型の処理施設でなければ補助金を出さない仕組みが問題のおおもとです。しかし、少なくとも自治体でゴミの減量化の取組みが行われています。自らの地域で出したゴミはそれぞれの地域で処理することこそ基本です。

問題2 ガス化溶融炉

「ガス化溶融炉が有力な選択肢」として計画がすすまられています。この施設は全国でも事故が頻発しています。氷山の一角しか表に出ていなくて（左表）技術的に未確立の施設といわれています。また一定以上の高温で運転し続けなければならぬために炉の火を消せず、燃やすゴミを常に確保する必要があるゴミ減量化の取組みに逆行する施設なのです。焼却炉の建設コストやその後の運転コストが高くつき、莫大な財政負担が住民と行政に押しつけられます。

計 画	ガス化溶融炉が有力な選択肢（彦根市、石寺町）	彦根市
		犬上郡
		愛荘町

広域化

現 在	ストーカー炉（彦根市野瀬町）	彦根市
	RDF施設（愛荘町）	犬上郡 愛荘町 (旧)愛東・湖東町

問題3 公開の原則

石寺町では「村づくり」の総会で「要請されている」と自主的に発表されました。しかし、「4カ所の候補地を1カ所にしぼりこんだ」といいながら、県や各市町は具体的な候補地を正規の場であきらかにしていません。県は要綱のなかで「今まで以上に周辺住民の理解と協力が不可欠であり、計画の段階で十分な住民説明を行う」としており、候補地とされている石寺町はもとより関係市町民に対して計画の公開こそ急務です。ここに至っても隠し続けていることは、いかに問題のある施設かを物語っているのではないのでしょうか。

ガス化溶融炉 爆発・火災…事故が目白押し

2003年7月	兵庫県高砂市	重大事故の連続
2003年8月	青森県弘前市	灰溶融炉爆発
2003年9月	広島県福山市	圧力異常で火災
2003年9月	福岡県古賀市	セラミック管破裂
2004年1月	香川県直島	溶融炉で水素爆発
2004年7月	静岡県静岡市	灰溶融炉爆発
2005年5月	東京都足立区	灰溶融炉爆発

問題4 軟弱地盤

候補地とされている石寺町地先は、曾根沼の埋立地で彦根市の現焼却炉の建設時も候補地とされました。しかし、地盤が軟弱なためにふさわしくないとみおくられたのです。さきの中越沖地震では柏崎原発の影響がとりざたされていますが、液状化現象によるゴミ処理施設に影響が起きれば市民生活はたちまち混乱することは目に見えています。

ゴミ問題解決の基本的立場

限界にきているゴミ問題を解決するには、「大量生産・大量廃棄」の経済構造や「焼却中心主義」からの脱却を図ることが必要です。徹底した分別で資源化できるものは資源として、又、生ゴミのたい肥化の取組みでゴミを究極まで減量化する取組みなど行政と市民の協力で減量化する展望をもつことです。

問題5 彦根梨の優良産地

隣接地は彦根梨の産地であり生産者からもダイオキシンの影響、風評被害など心配されています。